

RACE REPORT



**SUPER
FORMULA**

Round.06 **FUJI**

第6戦 富士スピードウェイ

2025 年 7 月 19 日 (土)

予選・決勝

天候：晴れ 路面：ドライ

#38 阪口 晴南

予選 7 番手 決勝：7 位

#39 大湯 都史樹

予選 4 番手 決勝：8 位

2025 年の全日本スーパーフォーミュラ選手権は、5 月に開催された第 5 戦から 2 ヶ月のインターバルを経て、第 6 戦・第 7 戦を迎えた。舞台は静岡県富士スピードウェイだ。7 月 18 日 (金) に行われたフリー走行では、SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING の阪

口晴南、大湯都史樹のふたりは 1 回目で阪口がトップタイムを記録。2 回目では大湯が 5 番手につけるなど、それぞれ上位にはつけていたものの、一方でさまざまな課題も見つかった。チームは 7 月 19 日 (土) の第 6 戦の予選・決勝に向け、セットアップの改善、状況の把握を進めていった。

QUALIFY 公式予選

7 月 19 日 (土) 9:10 ~ 10:02 天候：晴れ 路面：ドライ
ベストタイム #38 阪口晴南 1'22.929 / #39 大湯都史樹 1'22.784

フリー走行では 2 回とも阪口、大湯がトップ 10 圏内につけていた SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING だが、阪口は「1 回目のタイムは上位でしたが、セットアップの感度が大きくて、少しでも踏み外すとまともに走れないような綱渡りの部分があります」と振り返った。また大湯も「フリー走行 1 回目からニュータイヤでのグリップ不足に悩まされています。最後に調整して良くなったものの、なぜ良くなっているのかピンときていない状況です」とやや難しいレースウィークであることを感じさせた。

ただエンジニアたちの原因究明もあり、7 月 19 日 (土) の午前 9 時 10 分からの公式予選 Q1 では、A 組に出走した阪口がまずは 1 分 22 秒 738 を記録し、3 番手で Q2 へ進出する。B 組では、開始時に信号機のトラブルで仕切り直しになる珍しいシーンもあったが、大湯が 1 分 23 秒 064 を記録。こちらも 3 番手で Q1 突破を果たした。

続く Q2 では、トップ 2 台が頭ひとつ抜けたタイムを記録するなか、大湯が 4 周目に 1 分 22 秒 784 を記録。4 番手グリッドを獲得する。また阪口も 1 分 22 秒 929 と、僅差で 7 番手に。ふたりがそれぞれ 2 列目、4 列目という好グリッドを獲得した。

「Q2 では、コンディションの変化を読んで攻めた方向に変更していったのですが、コンディションはあまり上がりませんでしたね」と阪口。一方、大湯は、前日悩んでいた問題点は明確ではないというものの、「パフォーマンスが大きく不足しているわけではないですし、ある程度のパフォーマンスがあるからこそ順位だと思っています」と自信もみせた。

2 台がそろって上位からスタートできることになった SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING は、決勝でのさらなる順位向上へ準備を進めた。



RACE

決勝レース

7月19日(土) 15:15~16:11 天候:晴れ 路面:ドライ
ベストタイム #38 阪口晴南 1'24.644 (13L) / #39 大湯都史樹 1'25.002 (25L)

公式予選終了から5時間ほどのインターバルで迎えた第6戦の決勝レース。気温33度/路面温度49度という厳しい暑さのなか、午後3時15分にフォーメーションラップがスタートした。

午前の予選の結果で大湯は4番手、阪口は7番手からスタートを切ったが、激しい攻防のなか大湯は5番手、また「位置取りが悪かった」という阪口は8番手と、ひとつずつポジションを落としてレースを進めていくことになった。2周目、阪口はひとつポジションを落とすも、4周目には#7 小林可梦偉をかわし8番手に復帰するなど、オーバーテイクが比較的容易な富士スピードウェイで激しいバトルを展開していった。また大湯も4番手を走る#15 岩佐歩夢のとのギャップを縮めるなど、序盤こそ大湯、そして阪口とも感触は悪いものではなく、好ペースで走ることができていた。

4周を過ぎると少しずつ上位陣の争いは膠着しはじめ、10周を過ぎるとピットウィンドウがオープン。上位陣でも続々とピットに向かう車両が現れた。SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGの2台は、まずは8番手にいた阪口がピットイン。同時にピットに入った#5 牧野任祐の後でコースに戻ったものの、ややその差は広がっていた。わずかにピットでロスタイムがあったためだ。

一方の大湯は、他車のピットインにより3番手にポジションを上げた後、21周を終えピットへ向かった。ただ、このピット作業でもロスタイムが大きく、コースに復帰した後は#14 大嶋和也の後方となる8番手にドロップしてしまうことになった。

各車がピット作業を終えると、阪口の順位は6番手、大湯は8番手となった。しかし、SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGの2台はレース後半、

苦しいレースを強いられてしまうことになった。

10周を終えてピットインしており、レース後半は長いスティントを走っていた阪口が、11周にピットインしていた#14 大嶋に追われる展開となった。

阪口はなんとかポジションを守っていたものの、27周目のTGRコーナーでオーバーテイクを許してしまい、これで7番手にドロップ。その後は阪口、そして8番手を走っていた大湯ともにレースペースが非常に厳しく、そのまま阪口が7位、大湯が8位でレースを終えた。

予選の位置を考えれば、本来順位を上げたいところではあったが、大湯については大きくポジションを下げることになってしまった。2台が揃ってピットでロスタイムを喫したほか、レースペースについても改善の必要性を感じさせた。

2台ともにポイントを獲得できたことはポジティブなものではあるが、目指すところはもっと上。7月20日(日)の第7戦に向け、チームはさらなる改善を目指す。

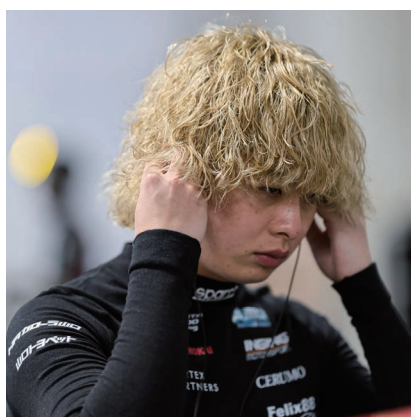


COMMENTS ドライバー／監督コメント



38 阪口 晴南 SENA SAKAGUCHI

「レース序盤、タイヤが元気なうちはペースがありそうな印象がありました。序盤は前に仕掛けられそうな雰囲気もあるくらいだったのですが、ピットインを行った後、タイヤを換えた直後は良かったものの、その後のペースが上がらず、ジリジリと苦しくなり、同じ戦略を採っていた大嶋和也選手にかわされてしまうレースとなってしまいました。レース序盤を犠牲にせず、スティント後半も伸ばせるような方向性を考えなければなりません。明日の第7戦の方がスティントの距離は長くなりますからね。レース後半も速く走れるようにしなければと思います。もちろん予選もあるので、今日良かった要素を採り入れ、前のグリッドからスタートできるようにしたいです」



39 大湯 都史樹 TOSHIKI OYU

「決勝はペースが足りていなかったことが大きかったです。現状、トップ争いをしていいるメンバーのペースにはほど遠いですし、今回僕のクルマはバランスで苦労していて、集団の中に入ってしまうと、とてもオーバーテイクができる印象がないものでした。レースを戦う上では苦しかったですね。またピットストップでも時間がかかってしまい、それで遅れることになってしまいました。ペースについてはいろいろな問題がありそうなのですぐに解決しそうにはありませんが、明日の予選、決勝に向けたヒントはあったと思いますので、今回の第6戦で得られたことを糧にして、明日の第7戦も頑張っていきたいと思います」



立川 祐路 監督 YUJI TACHIKAWA

「決勝レースについては、ロングランのペースが2台とも足りていませんでしたね。公式予選では阪口選手、大湯選手とも結果は良かったものの、決勝についてはペースのなさが大きく響いてしまいました。またピット作業も2台ともタイムロスがあったので、そのふたつが大きかったと思います。これがチームの現状の実力だと思っているので、今後底上げを図っていかねばなりません。ただ、明日はもう第7戦がやってきます。今できることを少しでもやっていかねばいけないと思いますし、今後さらにチーム力を高めて優勝争いに加われるチームにしなければいけないと思っています。たくさんの応援ありがとうございました」



RACE REPORT

RESULT リザルト

第6戦富士スピードウェイ 決勝結果

Pos.	No.	Driver	Car	Engine	Laps	Total Time	Gap
1	1	坪井翔	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	36	51'49.941	
2	16	野尻智紀	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	36	51'56.704	6.763
3	15	岩佐歩夢	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	36	51'57.239	7.298
4	8	福住仁嶺	Kids com KCMG Elyse SF23	TOYOTA/TRD 01F	36	52'03.649	13.708
5	5	牧野任祐	DOCOMO DANDELION M5S SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	36	52'05.545	15.604
6	14	大嶋和也	docomo business ROOKIE SF23	TOYOTA/TRD 01F	36	52'08.798	18.857
7	38	阪口晴南	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	36	52'10.550	20.609
8	39	大湯都史樹	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	36	52'11.337	21.396
9	65	I. オオムラ・フラガ	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	36	52'12.980	23.039
10	6	太田格之進	DOCOMO DANDELION M6Y SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	36	52'13.903	23.962
11	64	佐藤蓮	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	36	52'14.756	24.815
12	3	山下健太	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	36	52'23.571	33.630
13	37	S. フェネストラズ	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	36	52'25.015	35.074
14	4	Z. オサリバン	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	36	52'28.905	38.964
15	50	小出峻	San-Ei Gen with B-Max SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	36	52'32.865	42.924
16	19	O. ラスムッセン	ITOCHU ENEX WECARS TEAM IMPUL SF23	TOYOTA/TRD 01F	36	52'35.392	45.451
17	20	高星明誠	ITOCHU ENEX WECARS TEAM IMPUL SF23	TOYOTA/TRD 01F	36	52'38.004	48.063
18	28	小高一斗	KDDI TGMGP TGR-DC SF23	TOYOTA/TRD 01F	36	52'41.032	51.091
19	29	野中誠太	KDDI TGMGP TGR-DC SF23	TOYOTA/TRD 01F	36	52'48.197	58.256
20	10	Juju	HAZAMA ANDO Triple Tree SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	36	52'49.676	59.735
21	12	三宅淳詞	ThreeBond SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	36	52'49.800	59.859
22	7	小林可夢偉	Kids com KCMG Cayman SF23	TOYOTA/TRD 01F	36	53'08.326	1'18.385

以上完走

ドライバーランキング（上位）

Rank.	No.	Driver	Total
1	36	坪井翔	73
2	5	牧野任祐	71
3	6	太田格之進	62
4	16	野尻智紀	57
5	15	岩佐歩夢	52
6	38	阪口晴南	26
7	65	I. オオムラ・フラガ	25
8	64	佐藤蓮	24
9	3	山下健太	22
10	8	福住仁嶺	17
13	39	大湯都史樹	12

チームランキング

Rank.	Team	Total
1	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	123
2	TEAM MUGEN	93
3	VANTELIN TEAM TOM'S	82
4	PONOS NAKAJIMA RACING	48
5	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	38
6	Kids com Team KCMG	31
7	KONDO RACING	20
8	docomo business ROOKIE	12
9	San-Ei Gen with B-Max	3